

(件名) 鹿児島県立短期大学の四年制大学への改編を含めた制度設計について、有識者等を含めた検討委員会を設置し、広く議論されることを求めます。

(陳情の趣旨)

県立短期大学は昭和25年に設置されて以来、学科の再編、教育内容の充実、就学環境の整備等に努め充実した教育により地域に貢献してきたところですが、しかし社会が劇的に変化した現在、社会のニーズに十分応える人材の育成がされているとは言えなくなっています。例えば、短大卒の栄養士が活躍した職場は管理栄養士に代わり、全課程の卒業生が数多く教員として活躍していましたが、今では一部の課程で資格が取れても教員に採用されない時代となっています。国の制度や社会のニーズが大きく変化する中、短期大学では社会のニーズに対応することが困難になっていると言えます。

全国を見ましても、少子化の影響で大学進学年齢層の人口も年々減少しています。

併せて、短期大学で得られる栄養士、教員、建築士等の資格では、専門職として社会に受け入れられない時代となっており、短期大学への進学希望者は大幅な減少が続き、平成5年度に約25万人いた入学者が令和4年度には4万人弱となり、この傾向は今後も続くと推計されています。

県立短期大学の四年制大学への改編に関する議会質問に対する県当局の答弁は、「県立短期大学は地域の教育ニーズに応え、貢献している。」、「更に魅力ある短期大学を目指して行くこととしており、四年制化については現時点では考えていない。」と何年も繰り返されてきました。

県立の四年制大学がない県は、全国で鹿児島、佐賀、徳島、栃木の4県ですが、佐賀県は5年後に県立四年制大学を開学することを同県知事が本年2月に発表しました。また、本県を除く全国の県立短期大学が、社会の高度化に合わせて平成30年度までに四年制大学等（大分県立短期大学は四年制大学卒の資格が得られる専門課程設置）に改編されました。

鹿児島の四年制大学進学率は全国ワースト1が長年続いています。県立大学がなく進学の選択肢が限られていることも影響していると思われます。九州圏内の他県国公立大学だけでも毎年多くの本県若者が入学しており人口流出要因となっています。県立短期大学を四年制大学に改編することで、優秀な若者が地元で就学でき、また地元に残ることによる経済効果は多大なものとなります。

全国の全県立短期大学が時代の変化に合わせて制度改革を完了している現在、毎年多額の公費を投資している鹿児島県立短期大学の改革は、設置者として避けて通れない課題であります。

同短期大学を取り巻く環境は年々厳しくなります。それを反映し一部学科ですでに定員割れとなっています。設置者である鹿児島県が「県立短大の改編は喫緊の課題」として捉え、公立大学として将来あるべき姿を検討されることを切にお願いいたします。

以上の趣旨に基づき、下記事項を陳情します。

記

1. 県及び短期大学と有識者等による検討委員会を設置し、公立大学として最適な制度設計について真剣な議論が促進されること。
2. 県の高等教育機関である県立短期大学は、社会情勢の変化に対応した人材の育成を重視し、常に中長期的な展望に立ち改革・改善を図ることが重要である。このことを踏まえ、重点施策の一つとして「かごしま未来創造ビジョン」に加えること。